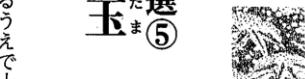


考古資料精選⑤ 緒締形勾玉



北新町遺跡から出土したもので、弥生時代に使用されていた装身具です。

特に、形が「緒締」(袋、巾着、印籠、たばこ入れなどの縄を通じて口を束ね締める道具)を想像させることからこのように呼ばれています。

の生産や流通を考えるうえで大変貴重な資料になると思われます。また、勾玉には呪術的要素についても指摘されていることから、弥生人の精神世界がうかがえる資料とも言えるでしょう。

民俗資料館のホームページでも紹介しています。

大きさは長さ3.6cm、幅2.3cm、厚さ1.4cm、重さ21.2g。原石は斑点状に緑色が混じる乳白色をした翡翠で、これは新潟県糸魚川周辺で産出したものと考えられています。

このような形の勾玉は北部九州を中心に出土しており、近畿地方では極めて珍しいことから、当時



考古資料精選⑥ 壺棺



遺骸を埋葬する際に用いられた壺であることから壺棺と呼んでいます。中垣内遺跡から出土したもので、弥生時代中期(約2千年前)の方形周溝墓(溝を巡らした墓)に付随する形で埋葬されています。

た。

壺は口径22.6cm、器高64.0cm、胸部径49.0cmを測り、比較的大きく立派なものです。蓋は

壺の底部を打ち欠き、適當な形にして利用したもので、蓋だけを観察すると大切に葬るという意識が欠けていたのではないかという印象を受けます。

壺棺は、口の部分が狭く小さいため、成人の遺骸を納めることは到底出来ないと思われることが



考古資料精選⑦ 土器



ら、再葬(遺骸を仮に埋葬し、骨と化してから壺や甕に入れて埋葬すること)、あるいは乳幼児や子どもの遺骸を葬るために使用されていたものと考えられています。

大東市で出土した壺棺では、乳児の骨が残っていたとされる市

指定文化財の弥生式短頸大型壺型土器が有名ですが、加えて今回の資料も弥生時代の葬制を知るうえでは大変貴重な資料と言えます。

土器が有名ですが、加えて今回の資料も弥生時代の葬制を知るうえでは大変貴重な資料と言えます。